

ブログ「中東と石油」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943

ブログ「From OCIN in the Cloud」:<https://aehakazuya.blogspot.com/>

ホームページ OCIN INITIATIVE:<http://ocininitiative.maeda1.jp/>

ホームページ MY LIBRARY:<http://mylibrary.maeda1.jp/>

サウジアラビア:<http://mylibrary.maeda1.jp/SaudiArabia.html>

マイライブラリーNo.:0464

(注)本稿は2019年3月8日から4月20日まで4回にわたりブログ「中東と石油」及び「OCIN the cloud」に掲載したレポートをまとめたものです。

2019.4.22

どうなる？カショギ記者殺害事件の幕引き

| <u>目次</u> | <u>頁</u> |
|------------------------|----------|
| 1. 事件のあらまし | 1 |
| 2. 幕引きを急ぐサウジアラビア | 3 |
| 3. 米国トランプ政権の対応ぶり | 3 |
| 4. サウジのオウン・ゴールで高笑いのトルコ | 4 |
| 5. 暴露報道でサウジに反撃するカタール | 5 |
| 6. 今後を占う | 6 |

1. 事件のあらまし



昨年(2018年)10月2日、トルコのイスタンブールにあるサウジアラビア総領事館で衝撃的な事件が発生した。サウジアラビア国籍の新聞記者ジャマル・カショギ殺害事件である。カショギ氏はサウジ国内で活躍する有能な記者であった。彼は決して反政府ジャーナリストではなかったが、サウド王家を批判する記事を發表したため、当局からにらまれていた。身の危険を感じたカショギは家族を残して単身米国に移った。事実上の政治亡命である。彼はワシントン・ポストに記事を

寄稿していたが、当時のワシントン駐在サウジアラビア大使は、サルマン国王の子息、ムハンマド皇太子の実弟で元空軍パイロットのハリド・ビン・サルマン王子であった。

カショギ氏は別居中の妻との離婚手続きの為、新しい妻となる予定のトルコ人ガールフレンドを伴ってサウジ総領事館を訪問、彼女を総領事館前に待たせて、一人で館内に入った。しかしいくら待っても本人が出てこないことに不審を抱いたガールフレンドが警察に事情を訴えたのである。カショギから「もし相

当の時間待っても出てこないようであれば、警察に相談するように」と言われていたためである¹。

地元警察の問い合わせに対し総領事館は本人は裏口から出て行った、と説明した。しかしその目撃者はなかった。事態を重視した警察が更なる説明を求めたところ、領事館側は本人の洋服を着た人物が裏口から出て行く様子を撮影した監視カメラの映像を見せたのである。それでもその後の足取りは杳として知れず、何らかの事情で本人が総領事館内に留め置かれている疑いが濃くなった。

この報道に世界中のメディアが色めき立ち、カショギ記者が館内に拘束されているか、或はサウジ政府がひそかに本国に拉致したのではないかと、との憶測が流れた。外交特権のある領事館はトルコ政府といえども強制捜査できない。周辺情報を探ったところ、事件の数日前に 10 名近いサウジ人が外交パスポートで入国、総領事館に入っていることが判明した²。

捜査権限の及ばない外国領事館とは言え、自国の領土内で発生した異常な事件であるため、トルコ当局は国家の威信をかけて捜査した。そして決定的とみられる録音テープが地元メディアにリークされたのである。それは領事館内の一室でカショギ記者と本国から来たサウジ人たちとが激しく押し問答する様子が生々しく記録され、最後に本人と思しき人物のうめき声があり、しばらく沈黙があった後に、リーダーと見られる人物が本国に状況を説明し、指示を仰ぐ様子がうかがえた³。

録音はトルコ政府が館内に仕掛けた盗聴器によるものと見られる。大使館や領事館に盗聴器を仕掛けることは外交の常識であり、驚くに当たらない。逆に言えばいずれの国のいずれの大使館でも盗聴は覚悟の上である。そのため駐在国に聞かれない会話や会議の為、大使館側は音声が出れない防音室を設けることが多い。今回のケースは離婚証明書の発行を巡る話し合いで、しかも相手がジャーナリストであるため、通常の部屋を使わざるを得なかったのであろう。

あいまいな説明に終始したサウジ側もついに隠し通せなくなり、カショギ氏と口論の末、誤って彼を死なせてしまったと説明した。録音テープではカショギ氏の死因は拷問による故意の殺人の可能性が高いが、サウジ側はあくまで過失を主張している。

次なる問題はカショギ氏の死体の行方である。サウジ側は死体をバラバラにして公用車で運び出し、イスタンブール市内のサウジ政府協力者に引き渡したが、その後のことはわからないと説明、協力者の名前や引渡し場所・引き渡し方法などは明かさなかった。

事件関係者にムハンマド皇太子の腹心の部下がいたため、国際世論は皇太子が直接指示したに違いないと考えたが、サウジ政府はこれを強く否定、事件は偶発的なものであるとする主張を繰り返している。当の皇太子自身は公の場で沈黙を守り、トランプ米大統領など一部外国首脳との電話で身の潔白を訴えている。

この異様な事件を巡るサウジアラビア政府の対応ぶり、及び米国を始め事件の発生国であるトルコ政府、サウジと国交を断絶し反サウジキャンペーンに熱心なカタール政府さらには中国やヨーロッパ諸国の政府の反応について検証してみたい。

2. 幕引きを急ぐサウジアラビア



未曾有のスキヤンダルとなったカショギ暗殺事件で、サウジアラビアの国際的信用はがた落ちし、事件への直接的な関与を疑われたムハンマド皇太子は猛烈な逆風に見舞われている⁴。この状況に対してサウジ政府がとった態度は事件をもみ消し、一刻も早く幕引きを図ることであった。

サウジ政府は事件が偶発的なものであったこと、及びムハンマド皇太子(MbS)は何も知らなかったとの説明を繰り返している。関係者11人はトルコ当局の尋問要請を無視して直ちに本国に送還された。そして11月半ばに容疑者11人のうち5人に死刑を求刑するという検事総長が発表されたが⁵、5名はおろか容疑者11名全員の氏名は未だ明らかにされていない。

今年2月に入るとMbSの取り巻きで事件に深く関係したとされるAl Arabiyaテレビのジェネラル・マネージャTurki Aldakhilを駐UAE大使に転出させている⁶。中でもMbSの実弟、すなわちサルマン国王の子息であるハリド駐米大使を交替させたことは身内が捜査対象になることを避けるためと言って間違いない。報道によればハリド王子はワシントン駐在当時、カショギ記者からイスタンブール行きを相談され、スケジュールを確認したうえでその内容をリヤドに報告しており、ハリド王子は殺害の片棒を担いだと考えられる。

そして3月1日、検察当局は捜査の終結を宣言した⁷。その2日後には国王勅令で6人の最高裁判事が任命されている。恣意的な判決を導く意図が明らかである⁸。さらに奇妙なことに、外電は事件の鍵を握っていると思われるMbSのアドバイザーSaud Al-Qahataniが一度も公判に姿を見せていないと報じている⁹。公判は非公開であり証人を含め出廷者の氏名は明らかでないが、ここにも事件の早期幕引きを図る国王とMbSの意思が見え隠れする。

3. 米国トランプ政権の対応ぶり



被害者のカショギ記者はワシントンポストにサウド家批判の記事を寄稿するジャーナリストであった。米国のマスコミ及び野党民主党は真相究明を求めたが、トランプ大統領はMbSを賢明で強い人物であると称賛¹⁰、サウジアラビアが裏切ることはないだろうと強く肩入れした¹¹。残忍な殺害方法が明らかになると、さすがに大統領は「ひどい話だ！」と驚いたものの、MbSの関与に関しては「推定無罪だ！」とツイートし、その後の裁判についてもサウジの国内問題であるとして批評は避

けている。

トランプ大統領がこれほどまでにMbSに肩入れするのは、MbSの訪米時に締結した超大型の武器売買契約が念頭にあるとの見方がある。しかし最近の両国の動きを見ると別な要素も浮かび上がってくる。それはトランプ大統領の娘婿ジャレッド・クシュナーとMbSの間に強い結びつきがあり、クシュナーはその関係を中東和平問題に利用しようとしている構図である。トランプ大統領は彼自身の強力な支持母体であるキリスト教福音派(エバンジェリカル)の歓心を買うためユダヤ教徒である娘婿のクシュナーを中東和平特使に任命、イスラエルに有利な調停を模索している。

そのようなシナリオの中で2月にクシュナーがサウジアラビアを訪問、サルマン国王及びMbSと会談を行った¹²。この会談でクシュナーは義父のイスラエル支援策—エルサレムへの大使館移転及びゴラン高原の主権承認—について、サウジアラビアがアラブ陣営の先頭に立って異議を唱えることがないよう説得したに違いない。その交換条件の一つがカショギ事件の非人道性批判を控え、MbS体制を守ることであろう。

ゴラン高原は1967年の第三次中東戦争(6日間戦争)でイスラエルが占拠し、その後1981年に併合宣言したものである。国際社会はこれを認めておらず、ましてアラブ・イスラム諸国にとっては反イスラエル・キャンペーンで大同団結するための大義名分である。イラン、トルコはその急先鋒であるが、アラビア半島の盟主を自認するサウジアラビアもかつてはアラブ・サミット或いはOIC(イスラム協力機構)で反イスラエルの論陣を張ってきた。クシュナーはそのようなサウジアラビアに対して表立った反対を抑えるよう説得または強要し、その材料としてカショギ事件を利用したと考えられる。

実は注目すべき発言が UAE から発信されている。それは「パレスチナ和平促進のためアラブ諸国はイスラエルに対してオープンな姿勢を取るべきだ」とする同国外務担当国務相の談話である¹³。UAE はイラン、カタール、イエメンなど地域の諸問題でサウジアラビアと歩調を合わせており、経済・外交面で影響力の大きいサウジアラビアが言いづらいことを同国に替わって世界に発信することが少なくない。今回の発言もそのように見れば納得できる。クシュナーが UAE に言わせたと勘ぐることもできよう。

パレスチナ和平問題では現在サウジアラビアと米国及びイスラエルが水面下で密接に情報交換していることはほぼ間違いないであろう。そこではそれぞれが有する強味と弱味が呉越同舟の結び目になっている。サウジアラビアにとって強味は世界の石油市場に対する支配力、そしてオイル・マネーによる米国武器の購入であり、弱味が MbS のカショギ疑惑なのである。

4. サウジのオウン・ゴールで高笑いのトルコ



カショギ事件に対する各国の反応はサウジアラビアに対する明らかな嫌悪感と軽蔑感であろう。それは例えて言えば稚拙なプレーの末にオウン・ゴールを犯してしまったサッカーの試合である。観客たちはサウジの選手、コーチ、監督がどうしてよいかわからずグラウンドであたふたしているのをうんざりして眺めているのである。

トルコは事件が自国のイスタンブールで起こったため犯人の身柄引き渡しを求めた¹⁴。当初サウジ側が、被害者の遺体処理をトルコ国内のサウジ政府協力者に任せたと説明したこともあり、トルコ側は自ら捜

査に乗り出したが、サウジの説明は二転三転し捜査は行き詰った。犯罪がトルコの主権が及ばないサウジ領事館内部で発生したため、サウジ側は外交特権を盾に犯人の身柄を早々と本国に送還した¹⁵。トルコ政府に打つ手はなかった。

しかし執拗に事件の核心に迫る世界のメディアからは次々と暴露ニュースが流れた。その中にはカショギの遺体処理に関するものもあった¹⁶。それによればイスタンブールのサウジ領事館の敷地に耐熱度千°Cという大型焼却炉が設置され、その中で3日3晩燃やされたとのことである。遺骨は跡形もなく灰になり完全に証拠が隠滅された。事実の解明はサウジ国内での裁判に委ねられることになるが、裁判は完全非公開である。しかも直前に最高裁判事が任命替えされ、事件に対するサウジ政府の姿勢に疑念が浮かんた。MbS が証言台に立つことなど考えられず、事件の全容を知ると目される MbS の取り巻き達も巧妙に逃げ回っている。事件の真相が解明されることは永久にないであろう。

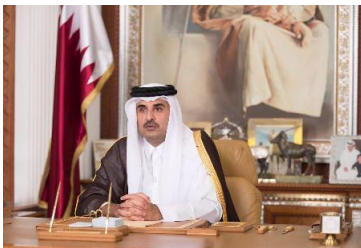
トルコ政府もこれ以上事件に深入りするつもりはなさそうである。但しこれによって MbS の疑いが晴れた訳ではなくむしろ疑惑が深まるばかりである。トルコ政府の狙いはまさに MbS の疑惑を最大限に利用することであろう。トルコ政府がこれまで公表された以上の極秘情報をつかんでいる可能性は高い。そうだとすれば、トルコ政府はサウジ政府だけでなく、MbS をかばうトランプ米大統領に対しても必要となれば切り札を持ち出すに違いない。

トルコとサウジアラビアはイスラーム(スンニ派)という共通の宗教に根差す歴史的側面に加え、政治・経済面では現代の国際同盟関係で対抗する構図である。宗教面ではかつてオスマン帝国としてイスラーム圏を牛耳ったトルコに対して、サウジアラビアは二大聖地マッカとマディナを抱え現代のイスラームの盟主であることを誇示している。政治・経済面ではサウジアラビアは米国の後ろ盾とオイル・マネーの威力でアラブ諸国の盟主を自認している。これに対し地域最大の経済力を誇るトルコは IS(イスラーム国)の掃討作戦、アサド政権主導によるシリアの内戦終結などでロシアとの関係を強化しており、ごく最近では武器輸入をめぐり、米国をいらつかせたりしている¹⁷。

トルコはカショギ事件でサウジアラビアをけん制し、同時に MbS の疑惑を喧伝することによりアラブの盟主エジプトを側面支援してアラブ世界の分断を図るものと考えられる。いずれにしてもカショギ事件はサウジアラビアのお粗末なOWN・ゴールなのである。

トルコとしては「時の過ぎゆくままに(As time goes by)」サウジアラビアが沈み行くのを眺めているだけで良いのである。

5. 暴露報道でサウジに反撃するカタール



イスラーム同胞団に対する支援を理由にカタールは2017年以来現在もサウジアラビア他アラブ4カ国から外交断絶及び経済制裁を受けている¹⁸。カタールが受けた影響は決して小さくなく、もし同国に天然ガスと言う強力な味方が無ければ、早晩サウジにひざまずいていたであろう。GCC 内で孤立した同国はトルコ或はイランとのつながりに活路を求めた。これはイラン、トルコと対立するサウジアラビアにとっては誤算であったろう。

苦しい外交を強いられるカタールにとってカシヨギ事件は千載一遇の巻き返しのチャンスであった。カタールはアル・ジャジーラ TV など支配下のメディアを通じてカシヨギ事件の真相を次々と暴露した。すでに触れた遺体焼却報道もその一つであるが、その他にも独自の取材ルート、トルコ当局からリークされる情報或は米国ワシントン・ポストなど欧米メディアのニュースを孫引きしてサウジを非難した。当然のことながらサウジアラビアのメディアはこれら外国ニュースを報道せず、また事件に関する裁判報道など自国内のニュースも全く公表しない。そのためカシヨギ事件を追うにはカタールのメディアが最適である。

勿論同国の報道にはまゆつば的なニュースやサウジを貶めるためのニュースも垣間見られる。それでもカタールは一連の暴露報道でサウジの制裁に反撃、さらに国際社会にアピールして留飲を下げていることは間違いない。なお同国はサウジが主導権を握る OPEC(石油輸出国機構)から脱退するなど他の側面でもサウジ離れを加速させている¹⁹。今後カタールはオマーン、クウェイトなど必ずしもサウジと歩調を合わせない国々を語らってサウジアラビアにゆさぶりをかけるかもしれない。

カタールもトルコと同様「時の過ぎゆくままに(As time goes by)」サウジアラビアが沈むのを見ているだけで良いのである。

6. 今後を占う

日々激動する政治・外交の舞台ではカシヨギ事件そのものは MbS の思惑通り急速に風化して行くであろう。サウジ政府自身は強引に事件の幕引きを図ろうとしている。米国、トルコ、カタールなどの各国にしてもこれ以上事件の真相を暴いたところでメリットは少ない。あとは各国ともサウジ政府(及び MbS)に事件をちらつかせることで自国に有利な取引を行うことになるだろう。メディア或は国際人権団体であれば明らかな証拠を示さないままサウジアラビア政府或は MbS を非難することは可能であろうが、政治の世界ではその手法は長続きしない。国際政治・外交に自由平等や人権と言った正義のきれいごとは通用しないからである。

一方 MbS は石油を武器に資源の乏しい国々の一本釣り外交を展開、或は失墜した信用を回復するため国際会議で存在感を示そうとするに違いない。前者の二国間外交のひとつが最近の MbS のパキスタン、インド、中国訪問であろう²⁰。そして後者の国際会議でのアピールの場と目されるのが G20 サミットである。今年の G20 サミットは大阪で開催されるが、来年はサウジアラビアがホスト国として 11 月 21-22 日にリヤドで開催することが決まっている²¹。MbS としては6月の大阪サミットで国際舞台への完全復帰を狙っているものと思われる。そのため MbS は今回の G20 で安倍首相に次回ホストとして列強のお歴々にとりなしてもらおうと考えているに違いない。ただ G20 首脳の中で MbS の味方は今のところトランプ米大統領一人しかいない。他の首脳の多くは MbS に疑惑の目を向けており、二国会談には消極的とも考えられる。ホスト役の安倍首相にとって MbS は少々厄介者かもしれない²²。

もっと大きな今後の問題は国内経済問題であろう。MbS はビジョン 2030 でいくつかのメガプロジェクトを立ち上げたが、実現するには外国民間企業の技術と資本の導入及び国内民間企業の参画が不可欠である。しかし民間企業との関係に関する限り一昨年の汚職摘発事件と今回のカシヨギ事件は大きなマイナス要因となった。サウジの国内民間経営者は汚職摘発事件で MbS に不信を抱き非協力姿勢に徹して

いる。そして海外の民間経営者はカシヨギ事件のダーディーなイメージを嫌い、サウジアラビアへの投資・技術移転を躊躇している²³。

アラムコの社債発行に海外金融機関が群がり一見サウジアラビアに対する欧米の姿勢が元に戻ったように見えるが、これはあくまで金融の世界の話である。マネーには主義主張はなく、正義や倫理などの問題ともほぼ無関係であろう。しかし一般市民或は消費者と向き合うことが運命づけられている金融以外のサービス業や製造業の世界は別物である。

以上

本件に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

荒葉一也

Arehakazuya1@gmail.com

¹ ‘Where is Jamal Khashoggi? Mystery deepens as Turkey summoned Saudi envoy’ on 2018/10/5, The Peninsula (Qatar)

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/04/10/2018/Where-is-Jamal-Khashoggi-Mystery-deepens-as-Turkey-summoned-Saudi-envoy>

² ‘Turkish paper publishes photos of Saudi 'squad' sent to target Jamal Khashoggi’ on 2018/10/10, The Peninsula(Qatar)

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/10/10/2018/Turkish-paper-publishes-photos-of-Saudi-squad-sent-to-target-Jamal-Khashoggi>

³ ‘Tapes show Saudi journalist 'decapitated': Turkish daily’ on 2018/10/17, The Peninsula(Qatar)

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/17/10/2018/Tapes-show-Saudi-journalist-decapitated-Turkish-daily>

⁴ 参考レポート「皇太子と安倍首相の電話会談が語るもの：焦るムハンマド」参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/0461MbsAbeMar2019.pdf>

⁵ ‘Saudi Arabia’s public prosecutor seeks death penalty for 5 Khashoggi suspects’, 2018/11/15, Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1405371/saudi-arabia>

⁶ ‘Saudi named in report on Khashoggi murder becomes UAE envoy’, 2019/2/10, The Peninsula

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/10/02/2019/Saudi-named-in-report-on-Khashoggi-murder-becomes-UAE-envoy>

⁷ ‘Public prosecution concludes investigation into group accused of undermining Saudi Arabia’s stability’, 2019/3/1, Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1459976/saudi-arabia>

⁸ ‘Saudi King Salman appoints 6 new Supreme Court judges’, 2019/3/4, Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1461476>

⁹ ‘Royal adviser fired over Khashoggi murder absent from Saudi trial: Sources’, 2019/3/24, The Peninsula’

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/24/03/2019/Royal-adviser-fired-over-Khashoggi-murder-absent-from-Saudi-trial-Sources>

¹⁰ ‘Crown Prince a strong man: Trump’, 2018/10/21, Saudi Gazette

<http://saudigazette.com.sa/article/546144/World/America/Crown-Prince-a-strong-man-Trump>

¹¹ ‘Trump: I don’t think the Saudis betrayed me on Khashoggi case’, 2018/10/31, Saudi Gazette

<http://saudigazette.com.sa/article/546920/SAUDI-ARABIA/Trump-I-dont-think-the-Saudis-betrayed-me-on-Khashoggi-case>

¹² ‘Kushner meets Saudi Arabia’s King Salman, crown prince to discuss ‘increased cooperation’, 2019/2/27, Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1459036/saudi-arabia>

¹³ ‘UAE urges Arab openness to Israel’, 2019/3/28, Kuwait Times

<https://news.kuwaittimes.net/website/uae-urges-arab-openness-to-israel/>

¹⁴ ‘Turkish-Arab media group says Jamal Khashoggi murdered as Erdogan ‘pursuing’ missing case’, 2018/10/7, The Peninsula

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/07/10/2018/Turkish-Arab-media-group-says-Jamal-Khashoggi-murdered-as-Erdogan-pursuing-missing-case>

¹⁵ ‘Teams probing Saudi journalist's disappearance leave Istanbul consulate: Witnesses’, 2018/10/16, The Peninsula

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/16/10/2018/Teams-probing-Saudi-journalist-s-disappearance-leave-Istanbul-consulate-Witnesses>

¹⁶ ‘Khashoggi's body likely burned in large oven at Saudi consul's home’, 2019/3/4, The Peninsula

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/04/03/2019/Khashoggi-s-body-likely-burned-in-large-oven-at-Saudi-consul-s-home>

¹⁷ ‘Turkish FM says no turning back from Russia arms deal’, 2019/4/3, Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1477171/world>

¹⁸ レポート「カタール GCC 離脱の可能性も：カタールとサウジ国交断絶」（2017年7月）参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/0416GccDispute2017July.pdf>

¹⁹ ‘Qatar gives notice of its withdrawal from OPEC’, 2018/12/3, OPEC Press Release

https://www.opec.org/opec_web/en/press_room/5261.htm

²⁰ ‘Saudi Crown Prince starts Asia trip pledging \$20b for Pakistan’, 2019/2/18, Gulf News

<https://gulfnews.com/business/saudi-crown-prince-starts-asia-trip-pledging-20b-for-pakistan-1.62146620>

²¹ ‘Dates set for G20 Leaders’ Summit in Saudi Arabia’, 2018/4/17, Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1484056/saudi-arabia>

²² レポート「サウジ皇太子と安倍首相の電話会談が語るもの：焦るムハンマド」参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/0461MbsAbeMar2019.pdf>

²³ レポート「サウジ・ビジョン 2030 に赤信号：皇太子を警戒する内外の民間経営者たち」参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/0458MbsAndPrivateSectors.pdf>